

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】令和 2 年 10 月 22 日 (2020.10.22)

【公開番号】特開 2015-13125 (P2015-13125A)

【公開日】平成 27 年 1 月 22 日 (2015.1.22)

【年通号数】公開・登録公報 2015-005

【出願番号】特願 2014-138551 (P2014-138551)

【国際特許分類】

A 4 5 D 20/10 (2006.01)

A 4 5 D 20/12 (2006.01)

【F I】

A 4 5 D 20/10 1 0 1

A 4 5 D 20/12 K

A 4 5 D 20/12 C

【誤訳訂正書】

【提出日】令和 2 年 9 月 1 日 (2020.9.1)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ヘアケア電気器具であって、

本体、及び、前記本体に取り付けられ、壁と外壁とを含むハンドル、  
を含み、

前記壁は、前記ハンドルに設けられた主流体入口から電気器具の中に延びる主流体流路を形成し、前記外壁は、電気器具の外部面であり、

前記ハンドルは、前記主流体入口内へかつ前記主流体流路に沿って流体を引き込むためのファンユニットを含み、

前記電気器具によって生じるノイズ、振動、及び熱のうち 1 つ又はそれより多くを軽減するための絶縁層が、前記主流体入口の下流端から前記ファンユニットの周辺にわたって前記主流体流路の周りに設けられ、

前記本体は、前記主流体流路内の流体を加熱するための加熱器を含み、

前記本体は、該本体の流体入口から該本体の流体出口まで延び、前記主流体流路とは別個でダクトによって仕切られた流体流路を含み、

前記主流体流路は、前記本体において前記流体流路の周りに延び、

前記主流体流路内の流体は、前記流体出口とは別個の主流体出口によって前記本体から出る、

ことを特徴とする電気器具。

【請求項 2】

前記外壁は、前記壁の周りに実質的に連続して延びることを特徴とする請求項 1 に記載の電気器具。

【請求項 3】

前記外壁は、実質的に前記壁に沿って延びることを特徴とする請求項 1 又は請求項 2 に記載の電気器具。

【請求項 4】

前記絶縁層は、前記壁の周りで実質的に連続することを特徴とする請求項 1 から請求項

3 のいずれか 1 項に記載の電気器具。

【請求項 5】

前記絶縁層は、前記壁に沿って実質的に連続することを特徴とする請求項 1 から請求項 4 のいずれか 1 項に記載の電気器具。

【請求項 6】

前記絶縁層は、電気器具によって生じるノイズ、振動、及び熱のうちの 1 つ又はそれよりも多くを軽減することを特徴とする請求項 1 から請求項 5 のいずれか 1 項に記載の電気器具。

【請求項 7】

前記絶縁層は、発泡体又はフェルトから形成されていることを特徴とする請求項 1 から請求項 6 のいずれか 1 項に記載の電気器具。

【請求項 8】

前記壁は、プラスチック材料から形成されることを特徴とする請求項 1 から請求項 7 のいずれか 1 項に記載の電気器具。

【請求項 9】

前記プラスチック材料は、ポリカーボネート、ガラス充填 P P A、P P S、L C A P、又は P E E K のうちの 1 つであることを特徴とする請求項 8 に記載の電気器具。

【請求項 10】

前記ハンドルは、第 1 の端部及び第 2 の端部を含み、  
前記ハンドルは、前記第 1 の端部で前記本体に取り付けられ、  
前記主流体入口は、前記第 2 の端部にある、  
ことを特徴とする請求項 1 から請求項 9 のいずれか 1 項に記載の電気器具。

【請求項 11】

前記主流体入口は、前記ハンドルの周りに少なくとも部分的に延びる第 1 の開口と、該ハンドルの前記第 2 の端部を通して延びる第 2 の開口とを含むことを特徴とする請求項 10 に記載の電気器具。

【請求項 12】

前記ハンドルは、前記第 2 の端部に端壁を含み、前記第 2 の開口は、該端壁を通して延びることを特徴とする請求項 11 に記載の電気器具。

【請求項 13】

前記端壁は、前記ハンドルと実質的に直交することを特徴とする請求項 12 に記載の電気器具。

【請求項 14】

前記第 1 の開口は、前記ハンドルの前記第 2 の端部に隣接することを特徴とする請求項 11 から請求項 13 のいずれか 1 項に記載の電気器具。

【請求項 15】

前記ファンユニットへ電力を供給するための電力ケーブルが設けられ、該電力ケーブルは、前記ハンドルの前記第 2 の端部を通して延びることを特徴とする請求項 10 から請求項 14 のいずれか 1 項に記載の電気器具。

【請求項 16】

前記電力ケーブルは、実質的に前記ハンドルの前記第 2 の端部の中心を通して延びることを特徴とする請求項 15 に記載の電気器具。

【請求項 17】

前記本体は、主流体出口を有し、前記主流体出口は、前記主流体入口及び前記主流体流路に流体連通していることを特徴とする請求項 1 から請求項 16 のいずれか 1 項に記載の電気器具。

【請求項 18】

前記主流体入口から前記主流体出口までの前記主流体流路は、非直線状であることを特徴とする請求項 17 に記載の電気器具。

【請求項 19】

主流体が、前記ハンドル内で第１の方向にかつ前記本体内で第２の方向に流れることを特徴とする請求項１７に記載の電気器具。

【請求項２０】

前記本体内の主流体流れが、前記ハンドル内の主流体流れと実質的に直交することを特徴とする請求項１８または請求項１９に記載の電気器具

【請求項２１】

前記本体内の主流体流れ内の流体が、前記主流体流路内のファンユニットの作用によって前記本体の中に同伴されることを特徴とする請求項１から請求項２０のいずれか１項に記載の電気器具。

【請求項２２】

前記流体流路は、前記本体を通して延びるダクトによって形成されることを特徴とする請求項１から請求項２１のいずれか１項に記載の電気器具。

【請求項２３】

前記加熱器は、前記ダクトの周りに延びることを特徴とする請求項１から請求項２２のいずれか１項に記載の電気器具。

【請求項２４】

前記加熱器は、前記本体に沿って延びることを特徴とする請求項１から請求項２３のいずれか１項に記載の電気器具。

【請求項２５】

前記加熱器は、環状であることを特徴とする請求項１から請求項２４のいずれか１項に記載の電気器具。

【誤訳訂正２】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】０１７２

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【０１７２】

少なくとも、絶縁材料２１２は、ファンユニット７０の周辺に、好ましくはアクセスハッチ２２２の周りに位置決めされる。しかし、絶縁材料２１２は、内壁２２０の周りに実質的に連続してハンドルの長さにならって延びることが好ましく、それは、これがハンドルの絶縁に最も影響するからである。また、絶縁材料２１２は、主入口４０の周りに延びて、主流体流路４００内へ引き込まれる流体が直接発生する全てのノイズを低減することができる。

【誤訳訂正３】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】０１８３

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【０１８３】

少なくとも、絶縁材料がファンユニット５７０の周辺に位置決めされる。しかし、絶縁材料５２８は、ハンドルの外壁５２６と内壁５６０の間で実質的に連続して、かつ内壁５６０の長さにならって延びることが好ましく、その理由は、これがハンドルの絶縁に最も影響するからである。また、絶縁材料５２８は、主入口５４０の周りに延びて、流体流路５５０内へ引き込まれる流体が直接発生するあらゆるノイズを低減することができる。